

手術後の予防接種について

以下のような理由から、予防接種を受けた後は時間をおいて手術を受けることが妥当とされています。

- *ワクチン接種後、体内で抗体がつくられる時期に麻酔や手術を行うことで、抗体が十分作られない可能性があること。
- *ワクチンによる副反応が起こる時期に麻酔や手術を行うことで、副反応と術後の合併症の判断が難しくなること。

ワクチンによって副反応は様々ですが、多くの場合は接種した場所の痛み・発赤・発熱などです。重症なものでは、アナフィラキシーショック・けいれん・脳症などがあります。

手術前：ワクチン接種から手術までにあける時間

不活化ワクチンは2日

生ワクチンは3週間

(不活化ワクチン)

ヒブ、肺炎球菌、四種混合（DPT-IPV）、三種混合（DFT）、二種混合（DT）、不活性化ポリオ、日本脳炎、子宮頸癌、インフルエンザ、破傷風トキソイド、髄膜炎、B型肝炎、A型肝炎、狂犬病

(生ワクチン)

麻疹・風疹混合（MR）、麻疹、風疹、水痘、BCG、おたふくかぜ、ロタ、黄熱

(インフルエンザワクチンについて)

最近、インフルエンザの生ワクチンを輸入して予防接種を行っているクリニックがあります。(2018年時点では、まだ日本では承認されていない点鼻タイプのワクチンです。)

また、不活性化ワクチンでも、接種してから2週間ほどまれに重篤な副反応がでることがあるため、ワクチン接種後3週間は手術を控えるべきとする病院もあります。

(手術が終わってから、ワクチン接種を開始するまでの期間)

ワクチンの種類に関係なく術後一週間以降

手術を予定されている方、予防接種を予定されている方は参考になさってください。